



岐阜県青少年赤十字

防災教育推進校活動事例集

はじめに

活動事例－1 山県市立大桑小学校 … P. 1～3

活動事例－2 高山市立清見中学校 … P. 4～5



日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society



2022年は青少年赤十字は創設100周年

はじめに

青少年赤十字では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切にし、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』、『奉仕』、『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

青少年赤十字では、これらの実践目標の一つである「健康・安全」のもと、防災教育をとおして自然災害から青少年の健康と安全を守り、また、学校、地域、家庭における防災意識を高めることで、人間のいのちと健康、尊厳を守ることを目的として、プログラム及び教材の開発、研究を進めています。

岐阜県支部におきましては、上記目的の達成に向けて、開発、研究されたプログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」等を活用した取組み、また、教育現場における実践的、先進的な取組みを支援することで、本県のJRC加盟校における防災教育の発展、普及を目指しています。

本事例集では、今年度防災教育推進校として指定されたJRC加盟校の実践が載せられています。「自分のいのちは自分で守ること」に注力した取組、児童・生徒が防災教育で学んだ内容を、家庭や地域住民に対して普及する活動、地域等の組織(消防団等、奉仕団、气象台等)との協働に関する取組など、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、防災について学んだ実践が綴られています。

自然災害は忘れた頃にやってくると言われていますが、この事例集が、多くの学校において防災教育推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいた防災教育推進校の校長先生方にお礼を申し上げますと共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

なお、JRCは今年創設100周年を迎えたところですが、来年度から新たな100年を目指し、今までの助成金事業(防災教育推進校、研究推進モニター校、JRC100周年推進事業)の内容等を見直し、教育現場の先生方が活用しやすい事業になるよう**JRC未来応援プロジェクト事業**として新たに実施していくこととしていますので、引き続き青少年赤十字活動への御指導、御協力をよろしくお願いいたします。

令和5年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

活動事例ー1 山県市立大桑小学校

学 校 名	山県市立大桑小学校 (校長 花村 伸二)
活動の種類・単位	防災教育について 全校児童、保護者、地域住民
教育課程上の位置付け	特別活動 (学校行事・学級活動)

1 活動テーマ

地域・家庭・学校で子どもたちを守り切る

2 主な活動内容

(1)大桑地区防災訓練

【実施日時】10月30日(日)8時30分～11時45分

【参加者】児童・教職員・地域住民・消防士・防災士・防災ボランティア・消防団・市職員

大桑地区防災訓練は、年に1回の地域(小学校区)が主体として実施するもので、4年前から学校行事として位置付けている。この防災訓練には、行政、学校、地域住民、保護者が一緒になって参加している。

訓練内容は地域が主となって決定するが、準備会議には学校の担当者も参加し、自治会長、行政、消防団、防災士会、防災ボランティアの方々と連携を取り合いながら、児童が主体的に取り組むことができる内容にしている。今年度は模擬避難所、心肺蘇生法、簡易ベッド設営を行った。過去には、防災グッズの使用法や起震車体験、煙体験なども行っている。

こうした、学校・地域・行政が一体となった訓練を行うことで、学校だけでは企画・運営できないような防災体験活動が可能となっており、児童の防災意識を高めることにつながっている。



(2)防災授業

【実施日時】10月28日(金)10時40分～12時10分

【参加者】全校児童、教職員

講師に岐阜大学地域減災研究センター特任准教授村岡治道先生を招き、地震の揺れから身を守る方法を学んだ。

〔指導内容〕

- ・教室の中の危険な場所はどこかを考える。
- ・地震の揺れから身を守る方法を知る。(頭を守るダンゴムシの姿勢)。
- ・緊急地震速報がなった時、素早く避難(机の下に隠れる)することの確認。
- ・地震時やってはいけないことの確認。
- ・5、6年生による校内危険箇所のチェック。
- ・チェック箇所の交流と、対策を考える活動。

〔授業後の振り返り〕

- ・教室の中の危険箇所について、低学年から高学年まで意識付けができた。
- ・机の下に隠れるときも、強度のある机の下に隠れることや、緊急地震速報がなったら躊躇せ

ず素早く避難することの重要性について確認できた。

- ・ 5, 6年生は校内を回り、教室だけでなくトイレや廊下、体育館や特別教室の中の危険箇所について再確認し、どうすれば危険から身を守ることができるか意見を交流し対策を考えることができた。
- ・ 自分で考えて避難することの大切さについて理解することができた。



3 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

(1)公開した学級等

学年	学級数	参加者数	主な内容・参観対象者
全校	5	45名	地震から身を守ろう・教職員

命を守る訓練の前に、地震災害のDVDを視聴し、ワークシートを活用し、地震から身を守ること、緊急地震速報で身を守ることを学習した。

(2)児童・生徒、授業者、参観された方の感想等

- ・ 学校の教室や廊下にも地震の時には危ないものがたくさんあることが分かった。緊急地震速報が鳴ったら、少しでも早く自分の身を守る行動をしなければならなかった。(児童)
- ・ 緊急地震速報が鳴った時には、児童に指示している時間はない。普段から自分の身は自分で守る意識を持たせたり、叱咤の行動ができるようにしていきたい。また、普段からスマートフォンを携帯し、緊急地震速報が児童の耳に届くようにしておきたい。(授業者・参観者)

4 事業の成果、効果等

- ・ 大桑地区防災訓練はコロナ禍にあっても、規模や方法を工夫しながら、毎年継続的に行われている。それに学校として参加することで、児童はもとより地域全体で、自分の命は自分で守るという意識を高めることができた。
- ・ 岐阜大学地域減災研究センター特任准教授村岡治道先生を招いた防災授業では、今まで行ってきた身を守る方法について、児童も教職員も見直すきっかけとなった。授業の中で学んだ身の守り方は、防災授業の後に行った命を守る訓練において早速生かすことができた。
- ・ 『まもるいのち ひろめるぼうさい』は、DVDの映像やワークシートをそのまま授業で活用できるため、授業者が特別の準備が必要なく活用しやすい。年間で、命を守る訓練(避難訓練)と防災授業を計画的に実施することで、児童の防災に対する意識を継続することができた。

活動事例ー2 高山市立清見中学校

学 校 名	高山市立清見中学校 (校長 水口 和也)
活動の種類・単位	防災教育について、全校生徒が専門機関と連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習

1 活動テーマ

地域社会の一員として、いざという時に地域の人とつながり、力を合わせて、災害や非常時を乗り越える意志をもち、状況に応じて主体的に考え行動することのできる生徒の育成

2 主な活動内容

(1)保小中合同引渡し訓練(7月4日)

- ・本校の校区は過去に大雨で甚大な被害を受けた経験がある。そこで校区にある保育園、小学校、中学校が合同で、大雨洪水・暴風雨警報発令時等にもなう対応訓練を実施した。併せて、保護者と教職員との引き渡し体制の取り方を訓練した。
- ・災害時における教職員間の連絡方法を見直し、今回いただいた活動助成金で購入したトランシーバーによる災害時でも運営できる連絡体制を構築した。

(2)救急救命法を学び、身につける。(7月13日)

- ・赤十字救急法指導員の澤田真弓氏、小邑昌久氏、柚原真奈美氏、辻智仁氏を招き、AEDを用いた一次救命処置について理論と実技を学んだ。(写真右)



(3)地域の消防署員の講話を聞き、防災活動の現状を知る。(7月15日)

- ・校区の消防署員を招き、防災活動や救急活動の現状だけでなく、人の役に立つ消防署員の仕事の魅力をも、生徒たちは知ることができた。

(4)防災教室(災害図上訓練、避難所設営訓練、非常食体験) (11月1日)

- ・ハザードマップや災害・避難カードを作成する活動とおして、自分の住んでいる地域の災害の起きやすい場所を知ることができた。
- ・自宅から避難所までの避難経路、距離、持ち出すとよいもの等を理解することができた。
- ・避難所を設営する体験を通して、中学生として地域に貢献できることを考えた。



・当日の日程

- 8:20～8:50 豪雨災害に関するDVD(清見まちづくり協議会制作)視聴
- 8:50～9:20 各地域ハザードマップの確認・修正
- 9:25～10:00 災害・避難カード作成
- 10:05～10:20 地震災害に関するプレゼンテーション
- 10:20～10:50 避難所設営(全体)
- 10:55～11:55 避難所設営(ブース)
- 11:55～12:30 防災食の試食
- 12:30～13:00 片付け



3 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

(1)公開した学級等

学年	学級数	参加者数	主な内容・参観対象者
全校	5	66	救命救急法講習。報道機関のみ参観。
全校	5	66	防災教室。報道機関のみ参観。

(2)児童・生徒、授業者、参観された方の感想

【救急救命法講習を受けた生徒の感想】

- ・一つ一つの行動（周りの安全確認、出血しているかなど）がどれだけ大切なのか、理由を細かに説明して下さったおかげで、よく理解することができました。
- ・いつ誰が、どこで倒れるかは誰にもわからないので、いざという時は、今日実際に体験したように正しい方法でできるようにしたいと思います。しかし、本当に人が倒れてしまったらかなりあせって混乱すると思います。だから、今回習ったことを生かし、大きな声で助けを呼べるようにしたいし、身の回りのAEDの場所を確認しておきたいです。
- ・今回の講習では訓練用のAEDを使ったので、操作の仕方を細かいところまでたくさん知ることができました。一つ操作を間違えてしまうと、その人の命に関わってしまうので、もらった冊子をよく読んで、いざというときにできるようにしたいと思います。心肺蘇生は30回くらいで疲れてしまい、きつかったです。だけど、来てくださった講師の方々、一つの命を助けるために、一生懸命にやっていて、素晴らしいと思いました。

【防災教室終了後の生徒の感想】

- ・知らないことがたくさんあり、勉強になった。簡易トイレの作り方、車いすの動かし方、段ボールベッドの作り方など、実際にやってみると結構時間がかかることを知った。もし、災害が起き、避難することになったら自分のできることをやって共助ができるといいなと思った。
- ・避難者カードを作ることで洪水などに対しての私の対策の甘さがよくわかりました。以前、避難指示が出た時も「きっと大丈夫だろう」という気持ちでいたが、清見町は川が急流で、比較的少量の雨でも洪水になることを知って本当に危険な状況だったのだと思いました。
- ・自分の家が安全かどうかを知ることができました。土砂崩れの危険性はあるけれど、避難所に行くまでの道の方が危ないので家の二階で待機します。そのことを私だけが知っていてもだめなので、家族にも伝えたいと思います。また、段ボールでいろいろなものを作ってみて、複雑なところがありました。作り方を教えてもらっていない地域の方は実際の避難所では手こずると思います。今回の体験を活かして、いざというときは積極的に作ったり教えたりしたいです。
- ・清見町は津波とは無縁だけど、地震は起こる可能性があるということだったので、地震への備えもしなければならぬと思った。避難する時の持ち物など、家で確認したい。また、防災食は普段から慣れている食べ物のほうが、避難生活でのストレスが少なくなると思うので準備しておきたい。

4 事業の成果、効果等

全国どこの学校でも、新型コロナ禍での防災教育、特に防災訓練の在り方を模索してきたと思われる。しかし、「自助、共助、公助」の理念は変わることがないと考え、本校の生徒たちがいざという時に地域の人とつながり、力を合わせて、災害や非常時を乗り越える意志をもつ地域社会の一員として育つことを私たち大人は期待している。

今回の活動助成費を基に、幅広い防災教育活動を展開することができた。一つ一つの活動場面で、生徒も、そして教職員も状況に応じて主体的に行動するためにどうすべきかを考え、自分ができることは何かを問い続ける姿や思いが見られた。万が一にも災害は起きてほしくはないが、生徒たちの感想にもあるように、いざというときは防災教育で学んだことを学校として生かしていきたいと強く思う。



ち
か
い

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

2020年度

岐阜県青少年赤十字防災教育推進校活動事例集

令和3年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938